

## 李 亦萱（リ イセン）

中国出身

上智大学 文学部新聞学科

### 私が考える「平和」

中国で育った私は以前、自国の安定と平和を誇りに思ってきた。長年戦争や混乱に陥っている世界の国々や地域に比べて、中国公民である私たちが安全、安定した生活が保障されていることは幸運とも言えると思う。そして国もテレビ、新聞、学校教育などのメディアを通じて、祖国の繁栄と平和がいかに大切か、そのため祖国を愛し、その平和を促すべきであるとずっと教えてくれている。平和は、一国の国民にとって最も重要なことであり、私は今までそれを確信している。

ところが、高校二年生の時、インターネット上で『ドームの下』という中国の環境問題を深刻にさらけ出したドキュメンタリーを偶然に見たことで、それまでメディアに報道されていなかった中国の真相を初めて知り、驚きを禁じ得なかった。三ヶ月後、そのドキュメンタリーは中国全域で封鎖され、政府もそれについて避けて語らなかった。同じように、当時インターネットに対する審査も厳しくなり、Instagram などの外国の SNS への禁止をはじめとした海外インターネットが全面的にブロックされた他に、国内でのインターネット上の言論統制も厳しくなってきた。何故か政府はこういうような行動をとったのかというと、政府は中国社会に良くない言論がインターネット経由で国内に不安を招くことを防ぎ、国内の平和と安定を維持するためであると個人的に考えている。

実際、政府の立場からすると、そのような行動が理解できないわけではない。改革開放後、四十年近くにわたる経済発展により、中国はますます繁栄し、国力が高くなってきた。一方で、世界で数少ない社会主義国である中国の社会

システムやイデオロギーは、欧米諸国から批判や疑問の声が上がっている。民主主義や自由を標榜する欧米諸国とは異なり、人口が多く、民族構成が複雑である中国は、前世紀の長い戦争と分裂の時代を経て、ようやく国の長期的安定と平和を保てる中央集権的な共産主義体制を確立したため、政府は不安を招く言論にいつそう恐れているのであろう。

しかし、それと同時に、このように真実を隠蔽することが本当に正しいのか、と考えるようになった。それも自分が高校卒業後に海外でジャーナリズムを勉強したかった最も重要な理由となった。

私は、国の安定を維持するために真実を隠蔽するのは、真の平和をもたらすことができないと考えている。

今の中国では、政治への批判、政府の失策による災害の死亡者数、少数民族の強制収容所等々の報道が禁じられている。よって、多くの人は真実を知らず、真実を知らない結果、多くの人は他人の苦しみに関心を持たず、日常的な娯楽報道ばかりに没頭しているのは現状である。そこで、私は考えている「平和」は、人間同士が相互理解と関心の上に成り立つ安定した状態であるが、人々がお互いに無関心では実現できないと考えている。つまり、人間としての価値とは、お互いの苦しみを感じ合えることであり、その上で初めて平和が自然に生まれるのである。

そこで、新疆ウイグル自治区にある強制収容所を例として挙げてみる。それについての報道が国内で禁止されているため、大多数の国民はその存在を知らないのである。たとえその存在を知っている人がいたとしても、新疆の強制収容所の真実が報道されていないため、それ自体

は遠く、抽象的な概念であり、人々の共感を得ることはできない。そして、長期的な愛国主義の教育で、「国の安定が私たちの豊かな暮らしをつくってくれる」と教え込まれた国民にとって、少数者の人権は、国の安定と利益を守るために必要な犠牲として理解されるほどでもあると考えられる。この場合、個人の真実が見られず個人が抹殺され、生身の人間に代わって国家が絶対的な優位を占める。それは、真の「平和」と逆行するものであると考えている。

なぜかという、世界の現存している国家は依然として各自の利益のために別々の政治を行っているが、人類は国境を越えて共通の存在であるからである。人類全体の福祉のために働くのではなく、理解しようとするのではなく、人を国籍によって分断し、国益を優先に擁護することは、結局は対立以外の何ものでもなく、平和ももたらせないと考えている。

今回の東京オリンピックは 1 つ典型的な例である。今回のオリンピック大会では、卓球をはじめとする試合の勝負は、中国国内の日本に対する憎しみの感情をかきたて、日本選手への人身攻撃も含め、極端な民族主義的な発言がインターネット上で大規模に見られてきた。国民が試合を見ながら祖国のために一喜一憂するのは当然なことであるが、今回の他国への過激な憎しみと攻撃は、長年にわたって自国の真実に対する自省の欠落と、行き過ぎた愛国主義教育がともにもたらした、予想できる結果であると考えている。

外国人選手が人間として得るべき理解と尊重を失い、ただ一つの国のシンボルになってしまったとき、平和はますます遠ざかり、私たちも「世界的な平和」というオリンピックの最初の精神を無意識のうちに忘れてしまったのであろう。そして、私が信じる真の平和を実現するには、真実への尊重、人間への理解と共感が欠けてはいけないものである。

以上